

# 令和4年度市民意識調査報告書の概要について①

## 1. 調査の概要

- ・調査期間 令和4年11月14日～12月2日
- ・調査対象 18歳以上75歳未満の市民1,500名
- ・有効回答率 29.0%（前回：33.2%）

## 2. 主な調査結果

### 1. 重要度（これから市民が期待する施策）（「紀の川市市民意識調査報告書」P.12～13）

- 過去二年間トップであった「地域医療体制・医療サービスの充実」に代わって「子育て環境・体制の整備、支援」が最も重要度が高い施策となっています。
- 「地域医療体制・医療サービスの充実」、「高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進」、「災害に強いまちの形成」などの医療・高齢者・防犯に関連する施策については、例年重要度が高い傾向があり、住民ニーズが高いことが分かります。
- また、「観光資源を発掘・活用した観光振興」について、昨年度と比較して順位が9位上昇しており、アフターコロナにおける観光業の活性化が重要と考える市民が増加したと考えられます。

重要度順位	令和4年度	令和3年度
1	子育て環境・体制の整備、支援	地域医療体制・医療サービスの充実
2	地域医療体制・医療サービスの充実	災害に強いまちの形成
3	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進	子育て環境・体制の整備、支援
4	災害に強いまちの形成	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進
5	就労支援の充実と雇用創出の振興	防犯・交通安全対策の推進

# 令和4年度市民意識調査報告書の概要について②

## 2. 満足度（現在の施策に対する市民の評価）（P.14～17）

- 満足度が最も高いのは、昨年度と変わらず「水道水の安定供給」でした。
- 「家庭と地域による青少年の育成」、「快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進」について、施策名称の変更による要因も考えられますが、満足度が昨年度と比較して約25%下落しており、市民の求める施策の実施が出来ていない可能性が考えられます。
- 3分の1近くの人が「わからない」という回答だったのが「国際交流と多文化共生」で、これも昨年度と同様の結果となりました。
- 今年度については、全ての施策において満足度の低下がみられ、平均して11.0%満足度が低下しています。

満足度順位	令和4年度	令和3年度
1	水道水の安定的な供給	水道水の安定的な供給
2	健康づくりと疾病予防	豊かな自然環境の保全
3	豊かな自然環境の保全	健康づくりと疾病予防
4	ごみや資源物の効率的な収集・処理	ごみや資源物の効率的な収集・処理
5	効率的で効果的な消防体制の整備	地域の特性を生かした農業振興

# 令和4年度市民意識調査報告書の概要について③

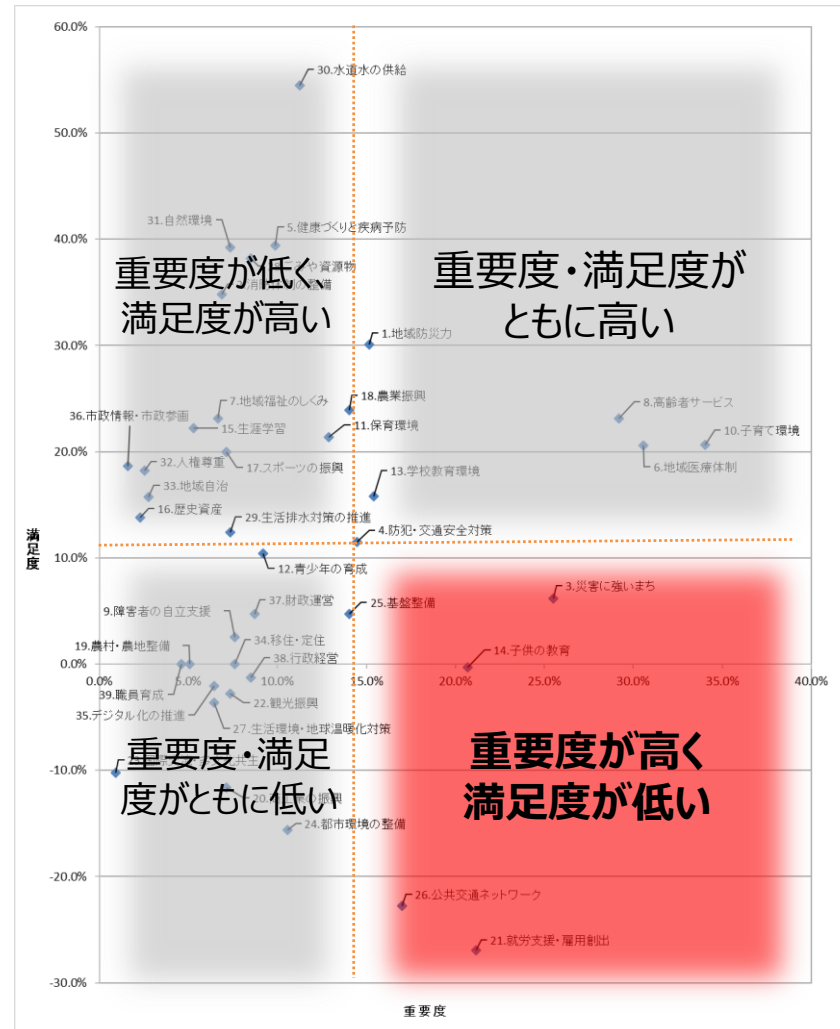
## 3. 重要度・満足度分析（重点的に検討すべき施策）（P.18～20）

○散布図（P.20）において右下（赤色部分）に位置する施策は、重要度が高いにもかかわらず満足度が低いことを表しており、特に紀の川市が重点的に検討すべき施策を表しています。

○今年度の結果から、「公共交通ネットワークの充実」、「就労支援の充実と雇用創出の振興」などが重点検討施策と言えます。

### 【重点検討施策】

令和4年度	令和3年度
公共交通ネットワークの充実	公共交通ネットワークの充実
就労支援の充実と雇用創出の振興	就労支援の充実と雇用創出の振興
道路や橋梁などまちの基盤整備	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備
災害に強いまちの形成	災害に強いまちの形成
子供の力をのばす教育	防犯・交通安全対策の推進



# 令和4年度市民意識調査報告書の概要について④

## 4. 「紀の川市への印象」について

- 紀の川市に対してのシビックプライドを問う質問では、約8割の方が「誇りに思う」・「どちらかといえば、誇りに思う」と回答しています。(P.23)

## 5. 「安全・安心」に関する分野

- 健康づくりへの取組を問う質問では、「取り組んでいる」・「どちらかといえば、取り組んでいる」と回答した方が昨年度と比較して6.1ポイント増加しています。(P.30)
- 障害のある方の地域での暮らしについて、約半数の方が、安心して生活することが出来ないと感じています。(P.36)

## 6. 「子育て・教育」に関する分野

- 生涯学習への取組を問う質問では、「取り組んでいる」・「どちらかといえば、取り組んでいる」と回答した方が昨年度と比較して9.6ポイント増加しています。(P.38)
- 子育てへの不安を問う質問では、約半数の方が、「感じる」・「どちらかといえば、感じる」と回答しています。(P.43)

# 令和4年度市民意識調査報告書の概要について⑤

## 7. 「産業・交流」に関する分野

- 日常生活における買い物状況を問う質問では、「感じる」・「どちらかといえば、感じる」と回答した方が約25%おり、市民の4人に1人の割合で、買い物に不安を感じていることがわかります。また、買い物環境の改善方法として、「近くにお店を誘致」と回答した方が最も多くなっています。(P.46～47)

## 8. 「都市基盤・生活環境」に関する分野

- 公園・遊具に対する満足度を問う質問では、約6割の方が、「満足していない」・「どちらかといえば、満足していない」と回答しており、「野あそびの丘」の整備を行いました。引続いて公園整備について市民から求められている可能性が考えられます。(P.53)

## 9. 「地域づくり・行政経営」に関する分野

- 市政の関心度を問う質問では、昨年度から比較して「関心がある」と回答した方が6.0ポイント増加しています。(P.60)
- デジタル化への不安を問う質問では、約6割の方が、「感じる」・「どちらかといえば、感じる」と回答しています。(P.69)